



梅島小だより

自ら学ぶために

副校長 鯉沼 哲

夏休みが終わって9月に入ると、暑さは和らいできましたが、台風や秋雨前線の影響で各地で大雨が降り、大きな被害が発生しております。災害にあわれた地域の皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

さて、早いもので、後わずかで今年度も前期が終了いたします。子供たちは、この半年で心も体も大きく成長しました。子供たちの成長する姿は、何よりうれしく感じます。後期もいろいろなことに挑戦し、さらに大きく成長してほしいと思います。

『孟子』の言葉に、「引いて、発たず」（ひいて、はなたず）という言葉があるのをご存知でしょうか。これは、子供に矢の射り方を教えるときは、矢の引き方までは教えるが、矢を放つところまでは見せてはならないという意味で、人に教えることは何でもやりすぎてはいけないということです。子供に自立心をつけたいとほとんどの親（私もその一人）は考えていますが、ついつい子供の要求にこたえてしまい、最後までやり方を教えてしまったり、手伝ってしまったりしてしまうことが多いものです。しかし、これでは子供たちのためにはなりません。子供たちは、今まで学んだことをもとにして考え、解決するための方法を導き出すことができます。これは、学校での生活の場面や学習の場面にも当てはまります。私たち教師は、学校生活の中で、基礎的・基本的なことを子供たちに身に付けさせ、解決するためのヒントを与え、それをもとに子供たちに様々な課題を解決する方法を学ばせています。時には、失敗したり間違ってしまったりする場面も出てきます。しかし、それこそが次への解決の糸口になるのです。子供たちには、最後まであきらめずに自ら考え解決する力をつけてほしいと思います。

保護者の皆様、地域の皆様には、本校の子供たちのために様々な場面でたいへんお世話になっています。ありがとうございます。これからも、子どもたちが悩み立ち止まっているときには、ほんの少しお力添えいただき、導いていただければと思います。